

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32411

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00714

研究課題名（和文）戦国期関東足利氏関係文書の総合的研究と関東・南奥政治秩序の考察

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of Documents Related to the Ashikaga Clan in the Kanto Period and Consideration of the Kanto/Nanoku Political Order

研究代表者

黒田 基樹（KURODA, MOTOKI）

駿河台大学・法学部・教授

研究者番号：60506517

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 5,700,000円

研究成果の概要（和文）：戦国期の関東足利氏関係の文書・記録史料の集成と、関東足利氏歴代および一族について、基本的事実関係の解明、基本的な政治動向の解明をすすめた。関係文書については9割以上について写真版を蒐集し、『戦国遺文古河公方編』収録文書以外について、入力作業を行った。その成果については今後、『戦国遺文関東足利氏編』として刊行を予定している。2025年からの刊行を準備している。関東足利氏歴代に関する研究については、「シリーズ古河公方の研究」として、第1巻『足利成氏・政氏』・第2巻『足利高基・晴氏』の刊行を終了し、現在は第3巻『足利義氏・古河氏姫』の原稿を作成中であり、2025年3月の刊行を予定している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

関東戦国史において将軍の地位にあった古河公方足利氏とその一族について、関係資料の集成を果たし、それをもとに公方歴代やその一族の動向などについて、可能な限り解明を果たした。とくに公方関係文書は無年号が大半であるが、発給者の公方各人の花押型の変遷を明確にし、それをもとに年代比定を行い、可能な限りの発給文書の総編年化を果たした。これにより公方歴代の動向について可能な限りの解明が可能になった。また公方歴代の政治動向などが明らかになったこととともなって、関東戦国史における公方歴代の果たした役割も明確になった。これらの成果は、今後における関東戦国時全体の政治構造を把握するための重要な基礎をなすものとなる。

研究成果の概要（英文）：We proceeded with the collection of documents and historical records related to the Kanto Ashikaga clan during the Sengoku period, and the clarification of the basic facts and basic political trends of the Kanto Ashikaga clan's successive generations and their families. Photographic versions of more than 90% of the related documents were collected, and input work was carried out for documents other than those included in "Sengoku Ibun Koga Kubo Hen". The results are scheduled to be published in the future as "Sengoku Ibun Kanto Ashikaga Hen". We are preparing to publish from 2025. Regarding research on the Kanto Ashikaga clan's successive generations, we have finished publishing Volume 1 "Shigeuji Ashikaga and Masauji Ashikaga" and Volume 2 "Takamoto Ashikaga and Haruuji" under the title of "Research on the Series of Furukawa Kubo." The manuscript for the volume "Yoshiuji Ashikaga, Ujihime Furukawa" is under preparation and is scheduled to be published in March 2025.

研究分野：日本中世史・近世史

キーワード：関東足利氏 古河公方足利氏 小弓公方足利氏 関東戦国史 発給文書

### 1. 研究開始当初の背景

戦国時代の領域権力(戦国大名・国衆)についての研究方法の基本は、当主および一門・家臣の発給文書の集成とその総編年化作業、受給文書・関係文書などの集成とそれらをもとにした政治動向の解明にある。現在、それらの観点から最も研究が進展しているのは、小田原北条氏(『戦国遺文後北条氏編』など)・甲斐武田氏(『戦国遺文武田氏編』)・駿河今川氏(『戦国遺文今川氏編』)・越後上杉氏(『上越市史別編』)とその周辺地域である。とりわけ関東に関しては、北条氏研究の進展、周囲の大名・国衆研究の進展により(私の国衆研究および『戦国遺文房総編』など)1年ごとの政治動向の把握がかなり可能な状況になっている。

しかしながらそうしたなかで、研究上取り残された状態にあるのが、下野・北下総・常陸地域であり、そこでの中心的な政治勢力は、古河公方足利家と下総結城家・常陸佐竹家である。古河公方足利家に関しては、当主発給文書については集成されているもの(『戦国遺文古河公方編』)家臣や関係文書の集成は果たされていない。結城家・佐竹家については、史料の集成作業する充分に行われていない。これらの地域研究において課題になっているのは、それらの発給文書は書状形式のものが大半であり、花押形や内容検討によって逐年代を比定していかなくてはならないところにある。

その作業のためには、関連文書を網羅的かつ写真版を含めて蒐集したうえで、花押形の変遷などを踏まえた総編年化作業が必要になる。しかしその作業は膨大になるため、研究者個人の作業量を超過している。そのため現在にいたるまでその作業がすすめられていないのである。本研究はまさにその作業を遂げることを課題にしている。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、第1に、古河公方足利家・結城家・佐竹家など、北関東・南奥地域の領域権力の関係文書を集成し、総編年化作業を行い、政治動向を可能な限り復元することである。それらの発給文書は書状形式のものが大半のため無年号であるが、花押形や内容をもとに出来る限り年代の比定、ないし絞り込みを行う。その際、北条氏・武田氏・房総地域など関東西部・南部については、研究蓄積によりほぼ政治動向の復元が完了しており(黒田基樹編『北条氏年表』など)その成果と照らし合わせることで、相当程度の復元が可能となる。

目的の第2は、室町時代の政治秩序を体現する足利家が、戦国時代においても古河公方家とその御連枝として、関東政界において頂点に位置し続けたことの歴史的評価を行うことである。これまでの研究では、古河公方家の存在について、政治的実権を失った「権威」と評価するにとどまっているのが通例であった。そのなかで佐藤博信氏は(『古河公方足利氏の研究』など)「公方・管領体制」などの概念を用いて、関東政治秩序の在り方の解明をすすめてきたが、それでも古河公方家の存在が、室町時代の鎌倉府段階とは異質な存在であり、最終的に北条氏の領国支配に決定的に依存して存立していたことをもって、政治権力としての終焉、「権威」としての存立と理解することでは、異なっていない。

しかし古河公方家が、戦国時代の最終段階まで、周囲の政治勢力に一定程度の影響を与える「権威」として存在していたこと、そのことそのものを追究することが重要であり、その歴史的な評価を与えることが必要である。そのためには古河公方家の動向を復元し、周囲の政治勢力との関係の在り方とその変化について、戦国時代に突入する契機をなした享徳の乱(1455~82)から小田原合戦(1590)までの戦国時代全般を通じての検討が必要になる。この検討は、本研究の目的の第1を遂げることで、はじめて着手することができるものとなる。

古河公方足利家や結城家・佐竹家の関係史料を網羅的に集成し、もって戦国時代における北関東・南奥の政治動向について、関東西部・南部の研究状況に引き上げること、そのうえで室町時代以来の政治権威としての古河公方家の存在に歴史的評価を与えることが、これまでの研究にはない独自性と創造性である。

### 3. 研究の方法

本研究において達成しようとする内容は、以下の諸点にまとめられる。

戦国時代の古河公方家・結城家・佐竹家関係史料を集成する。これにより戦国時代の関東に関する史料のすべてが集成されることになる。花押形の変遷・内容の検討によりそれら文書の総編年化を行う。

従来の研究で不分明な部分が多くを占めていた、北関東の政治動向の復元を可能にする。

それにより戦国時代の関東全体について、1年ごとの政治動向の復元が果たされる。

古河公方家の戦国時代における動向が詳細に解明される。

古河公方家と周囲の政治勢力との関係の在り方と内容の変化を把握することができ、戦国時代の最終段階における古河公方家の性格を把握することができる。

その性格把握をもとにして、「権威」の内実を明らかにすることができ、それによって戦国時代における室町時代の政治秩序の存続の歴史的評価を行うことができる。

この把握は、同じく政治権力としては存在していないものの、政治権威として存在し続けてい

た、室町幕府の足利将軍家や天皇家の存在理由についても、応用することができる。

以上の内容の研究を、次の方法によって行う。

### 史料蒐集

史料蒐集は、刊本史料集の検索、史料所蔵機関での閲覧・撮影、および複写依頼によってすめた。地方での史料所蔵機関・所蔵者での調査は、48箇所においておこなった。

### 研究の推進の仕方

本研究の遂行にあたっては、以下の関東戦国史研究者を研究連携者・研究協力者とし、作業分担していくことを予定した。

長塚孝（馬の博物館学芸員）	古河公方文書の研究
植田真平（宮内庁書陵部研究員）	古河公方文書の研究
駒見敬祐（杉並区博物館非常勤職員）	古河公方家文の研究
谷口雄太（日本学術振興会特別研究員）	古河公方文書の研究
小池勝也（東京大学大学院）	雪下殿・熊野堂殿の研究
石橋一展（千葉県教育委員会）	小弓公方の研究
杉山一弥（学芸大学講師）	堀越公方の研究
中根正人（筑波技術大学職員）	足利氏と北関東・南奥領主の関係
浅倉直美（埼玉県文化財審議委員）	足利氏と北条家の関係
木下聡（東京大学助教）	東京大学史料編纂所での史料蒐集
小川雄（日本大学非常勤講師）	喜連川氏の研究
柴裕之（東洋大学非常勤講師）	喜連川氏の研究

また2ヶ月に一回ほどの頻度で、研究会を開催し、成果確認を行った。

### 研究成果の公表

研究成果については、以下の形態でその成果を公表する。

史料蒐集とその成果に関しては、以下の史料集の編纂を開始する。

『戦国遺文 古河公方編』第2巻（補遺・家臣・頼氏）

『戦国遺文 常陸編』

『戦国遺文 関東上杉氏編』

古河公方に関する研究成果に関して以下の研究書を編集・刊行する。

『足利成氏』（戎光祥出版・シリーズ・中世関東武士の研究）

『古河公方足利氏』（同上）

歴代の古河公方とその一族に関する基本的な研究成果を以下の編著にまとめ刊行する。

『足利政氏とその時代』『足利高基とその時代』『足利晴氏とその時代』『足利義氏とその時代』

『喜連川足利頼氏』（戎光祥出版・関東足利氏の歴史）

『鎌倉公方・古河公方列伝』（戎光祥出版）

古河公方の「権威」の性格にかんする分析、古河公方と他の政治勢力の関係とその変遷についての追究については、本研究終了後に、研究グループのメンバーによる研究論文集を執筆・刊行する。

## 4. 研究成果

史料蒐集については、古河公方関係文書・記録については、ほぼ蒐集を完了し、『戦国遺文古河公方編』収録外の史料については、ほぼ入力を完了した。およそ史料集換算で2冊分ほどにあたっている。これについては、現在すすめている『室町遺文関東編』の刊行終了後に、『戦国遺文関東足利氏編』として、本研究に参加した研究者の一部を中心に、編纂・刊行する予定である。2025年を刊行開始を想定している。古河公方歴代の発給文書については、ほとんどについて写真版の入手を遂げた。

当初の予定では、下総結城氏・常陸佐竹氏についての関係文書の蒐集を計画していたが、申請時よりも交付額が大幅に減額されたこと、古河公方関係文書の調査で交付額を消化することになってしまったため、十分に取り組むことはできなかった。一部、『茨城県史料』収録文書などについて入力をすすめている状況に過ぎない。この部分については、別途にあらためて研究に取り組む意向である。

古河公方足利氏歴代および一族についての基本的な研究成果については、黒田編として「シリーズ・古河公方の新研究」（戎光祥出版）として、第1巻『足利成氏・政氏』（2022年）・第2巻『足利高基・晴氏』（2023年）の刊行を完了し、現在は第3巻『足利義氏・古河氏姫』の原稿作成をおこなっている。これらにより、公方歴代の発給文書について、あらためての集成と、写真版の確認をもとに花押型の変遷についての作業を完了し、それをもとに無年号文書についての年代比定、あるいは時期の限定作業を完了し、総編年化作業を遂げた。その他、公方歴代・一族についての基本的政治動向、妻子、直臣についての基本事項について解明し、詳細年表を作成した。それらの成果は、上記書籍に収録している。それらの内容が、本研究による具体的な研究成果となっている。

なお古河公方に関する先行研究の集成については、長塚孝編『足利成氏 シリーズ・中世関東武士の研究 33』（戎光祥出版、2022年）を刊行した。当初は『古河公方足利氏』の刊行も想定したが、出版社の了解がまだえられず、刊行にいたっていない。また鎌倉公方・古河公方足利氏歴代についてまとめる『鎌倉公方・古河公方列伝』については、「シリーズ・古河公方の新研

究」の刊行完了後に取り組む意向でいる。

これらの研究により、古河公方歴代およびその一族についての基本的事項について、解明を遂げることができた。とりわけ公方歴代の発給文書の総編年化作業を遂げることができたことは、今後の関東戦国史研究の進展において、重要な基礎をなすものといえる。またそれとともに、公方歴代および一族についての政治動向の解明も、同様に重要な成果となっている。少なくとも本研究の成果によって、古河公方足利氏歴代およびその一族については、基本的な解明を遂げるにいたったことは确实といえる。

なお当初の計画では、古河公方足利氏が政治的に影響力を持った、北関東・南陸奥の戦国大名・国衆の政治動向についても総合的に解明し、そのうえで関東・南陸奥において機能した古河公方足利氏の政治的性格、とりわけ「権威」の内実の解明については、北関東・南陸奥の戦国大名・国衆関係史料の蒐集を遂げることができなかつたため、取り組むことができていない。今後はその課題について、あらためて取り組む意向でいる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 黒田基樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 北条氏康の試練	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小田原城天守閣特別展『没後450年 北条氏康伝』	6. 最初と最後の頁 128-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田基樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 戦国大名 北条氏康－「今代天下無双の覇主」－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『令和3年度小田原城天守閣特別展『没後450年 北条氏康伝』関連イベント特別講演会』	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田基樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 享徳の乱における今川氏	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 戦国史研究会編『論集戦国大名今川氏』	6. 最初と最後の頁 61-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田基樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 上杉謙信と関東足利家	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 米沢市上杉博物館『特別展 関東管領上杉謙信』	6. 最初と最後の頁 121-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田基樹	4. 巻 なし
2. 論文標題 北条氏規・氏盛の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪狭山市教育委員会編『狭山池シンポジウム2020 北条氏と豊臣政権』	6. 最初と最後の頁 12 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田基樹	4. 巻 3
2. 論文標題 慶長期後半の真田信之の花押	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 戦国遺文真田氏編月報	6. 最初と最後の頁 1 - 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田基樹	4. 巻 833
2. 論文標題 真田家臣・清水家文書の紹介と検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 信濃	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計20件

1. 著者名 黒田基樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 163
3. 書名 図説享徳の乱	

1. 著者名 黒田基樹編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 359
3. 書名 北条氏康とその時代（戦国大名の新研究2）	

1. 著者名 黒田基樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 266
3. 書名 戦国関東覇権史 北条氏康の家臣団（角川ソフィア文庫）	

1. 著者名 黒田基樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 213
3. 書名 戦国「おんな家長」の群像	

1. 著者名 黒田基樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 321
3. 書名 北条氏綱（ミネルヴァ日本評伝選209）	

1. 著者名 黒田基樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 237
3. 書名 戦国北条家の判子行政－現代につながる統治システム（平凡社新書958）	

1. 著者名 黒田基樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 407
3. 書名 戦国期間東動乱と大名・国衆 戎光祥研究叢書18	

1. 著者名 黒田基樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 263
3. 書名 戦国大名・北条氏直(角川選書645)	

1. 著者名 黒田基樹ほか編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 313
3. 書名 室町遺文関東編第3巻（共編書）	



1. 著者名 黒田基樹ほか編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 315
3. 書名 戦国遺文真田氏編第3巻（共編）	

1. 著者名 黒田基樹編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 473
3. 書名 鎌倉府発給文書の研究	

1. 著者名 黒田基樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 279
3. 書名 太田道灌と長尾景春	

1. 著者名 黒田基樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 264
3. 書名 戦国大名・伊勢宗瑞	

1. 著者名 黒田基樹編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 305
3. 書名 室町遺文 関東編 第2巻	

1. 著者名 黒田基樹編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 325
3. 書名 戦国遺文 真田氏編 第2巻	

1. 著者名 黒田基樹編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 412
3. 書名 今川氏親	

1. 著者名 黒田基樹編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 408
3. 書名 北条氏直	

1. 著者名 黒田基樹編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 319
3. 書名 今川義元とその時代	

1. 著者名 黒田基樹編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 404
3. 書名 足利成氏・政氏	

1. 著者名 黒田基樹編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 311
3. 書名 足利高基・晴氏	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------